



クラブの会員増強と地域づくり

宮城県石巻市 定川喜楽会

- 会員数 82名（男性38名、女性44名）

震災後、若手委員会を設置

定川喜楽会は、7支部からなる石巻市老連内の河南支部に属しており、前谷地定川地区を中心に活動しています。今年度より、これまでの「定川クラブ」から「定川喜楽会」へとクラブ名を改め、単位老人クラブとして今後さらなる飛躍を遂げるための新たな一步を踏み出しました。

「お互いの存在を知る」「お互いに支え合う」といった、地域の将来を見据えた新たな「地域づくり」のための積み重ね。隣人とのつながりをもつことにどこか難しさを感じてしまふ今日ですが、老人クラブとしてこちらから歩み寄る勇気を持とうと、常に考えております。

平成23年の東日本大震災以降、市老連は震災からの復興・再建を目標に、日々弛まぬ努力を続けております。震災以降、全国大会への参加や他老連との交流事業といった活動から、老人クラブにおける60～70代の若手の力の重要性を認識していた私たちは、平成27年5月、宮城県内では初となる若手委員会を新たに設置しました。

私は初代委員長を務めさせていただきましたが、そこで最も重きを置いたことは「健康寿命の延伸」と「地域づくり」という観点でした。他世代や他団体と連携する中で、地域に住むすべての高齢者の自立した生きがいあ

る生活の実現を目指すこと、同世代の仲間づくりを通して住民同士がつながり、支え合える地域をつくっていくことが、老人クラブに求められている役割ではないかと考えました。そこで、若手委員会では設置年度の目標を「新規会員200名加入」とし、私自身も自らの地区で「地域づくり」を始めました。

地域に「知つてもらう」ということ

定川地区の「地域づくり」を行っていく上で当クラブが主眼としたことは、「まずはお互いの存在を知ることから」という点です。私たちが最も力を入れた活動は、地域に住む60～70代の若手高齢者一人ひとりに対する声かけ回りでした。この年代は働いている方も多いため、無理に活動は進めず、参加出来るようになつたときに参加してもらえばよいといつたように説明しました。当クラブは、ゲートボールやパークゴルフなどの健康活動の他に、公園花壇の植栽やお茶飲み会、声かけ、見守り活動といった奉仕活動も行っており、まずは私たちがどういった団体なのか、どの

これらの努力が実を結び、当クラブの当初17名だった会員数は82名となり、実に65名の新規会員増加に成功しました。

今後の展望

当クラブにおいては新規会員数の増加に成功しましたが、全国的に見た会員数は未だ減少傾向にあり、これは全国の老人クラブにおける課題の一つであると言えるでしょう。しかし一方で、老人クラブは地域においてどのような役割を求められているのかについて改めて考えることも重要であると私は考えます。当クラブのこれまで培った知恵や経験をもつて、定川地区の新たな「地域づくり」の一端を担つ



花の植栽



声かけ回りでクラブを説明



運動参加者の面々

（会長 澤邊健也）

